

広報たかはる令和3年3月号 町長コラム「いっぺこっぺ高原」より

コロナ感染収束の日を迎えるために

三寒四温を繰り返しながら暦の上では季節が冬から春に移り、町内のあちこちで梅、早咲きの桜、菜の花など春を告げる花々を見かける時期になりました。この冬が特に長く感じられたのは昨年11月からの新型コロナウイルスの第3波による感染拡大があったからかも知れません。2月に入ってから国民の感染防止に対する意識の高まりとGO TO キャンペーンの中止、緊急事態宣言による飲食店の時間短縮営業・外出の自粛そして日々全力でコロナに立ち向かっている医療従事者の存在等、国を挙げての取り組みにより感染者数は減少傾向にあります。宮崎県においても全国に先駆けて1月7日に発令した県独自の緊急事態宣言が功を奏し、感染拡大を抑え込むことができています。春の訪れと共に感染が収束に向かうような明るい兆しが見えてきました。しかし、感染の火種は今でもいたる所に潜んでいます。第4波を阻止するためにも引き続き「感染しない、感染させない」の気持ちを持ち続けていただきたいと思います。

世界では70を超える国や地域で新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が始まっています。日本においては、医療従事者への先行接種が2月17日から始まり、宮崎県内でも2月19日から接種が始まっています。先行接種は、ワクチンの安全性に関わる情報を集め、接種の不安解消に取り組むことが目的とされています。接種は医療従事者を対象に行い、接種した2万人の毎日の健康状態を記録し、厚生労働省は得られたデータを毎週公表することになっています。現在、国が示しているスケジュールによるとワクチンが安定的に確保された場合、先行接種の後に3月中旬以降は医療従事者、4月から65歳以上の高齢者、基礎疾患があり入院・通院中の人、高齢者施設などの従事者、60～64歳の人、16歳以上の人の順に接種を行っていくことになっています。

日本国内では、ワクチンの安全性と効果について様々な情報が交錯していますが、外国のデータでは有効性が非常に高く、発症リスクが大きく減少するとされています。

感染の収束に向けて期待は高まり、ワクチン接種は「希望の光」であり「感染収束の切り札」とも言われています。皆が安心して暮らせる日常を取り戻すためには社会全体で接種率を上げる必要があります。一人でも多くの町民の皆様に安心して接種を受けただけよう随時正確な情報を提供して参ります。

町では、2月1日にほほえみ館内に「新型コロナウイルス感染症ワクチン接種推進室」を設置し、接種がスムーズに実施できるよう準備を進めています。接種への不安をお持ちの方や不明な点は遠慮なくお問い合わせください。(電話 42-4820)